

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度第2回相模原市子ども・子育て会議				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315(直通)				
開催日時		平成30年10月5日(金) 午後6時から8時30分				
開催場所		市役所第2別館3階 第3委員会室				
出席者	委員	14人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	27人(こども・若者未来局次長ほか26人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 利用定員の確認について (2) 相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について 4 その他 (1) 子ども・子育て支援事業計画策定部会の進捗状況の報告について (2) 幼児教育・保育ガイドライン策定部会の進捗状況の報告について 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ (こども・若者未来局次長)

3 議 題

(1) 利用定員の確認について

- 利用定員を確認するということは、待機児童が発生しないようにすることと、過剰な定員の設定を避けるために行うものであるが、今後も保育の需要は高まることを見込んで設定しているのか。

本市では、就学前児童数は毎年減少しているものの、保育所等の利用申込は年々増加している。利用申請率についても、平成30年度は38.75%であったが、平成31年度は41%程度まで増加すると予測しており、今後もこの傾向は続くと思込んでいる。

- 待機児童が多い3号認定の供給量を単純に増やせばよいわけではなく、それは1・2号認定の供給量の問題とも関係する。3号認定の子どもたちの3歳以降の受入先との連携や補助はどのように考えているのか。

保育の需要の地域的な偏りがあるなかで、需要が高い地域での小規模保育事業者の募集を行っている。また、連携園を増やしていくための施策も検討しているところである。

- 幼稚園での2歳児の受入は、保育士と幼稚園教諭の免許の違いや、子どもたちの活動の制約など、質の部分での問題はないのか。

幼稚園ではすでに2歳児の受入を行っている園があり、幼稚園教諭も保育士や保育教諭の免許を所持している場合があること、また既存の施設を有効活用していくという国の方針から、小規模保育の卒園児の受入や市民への周知も含めて、今後も幼稚園、保育所等と連携や協力をしながら進めていきたい。

- 定員増の問題と関係する保育士の人材確保について、保育士が不足する理由はそもそも何故なのか。

共働き世帯の増加等により、人口が多い都市部では、保育の需要が高まっており、本市も含め、待機児童対策として保育所等の定員増を行うため、それに応じた基準を満たす保育士の数が必要となる。人材の確保と定着のために、研修の実施や処遇改善等、各都市で様々な施策を実施している状況である。

(2) 相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

- 目標値の設定の仕方や達成度の関係性が分かりづらい。達成したと記載があるものも、その程度で良いのかと疑問に感じる部分がある。
- 昨年度の意見への対応表をみると、今年度は満足度が上がったと記載されているものがあるが、今年度の書式にその内容を記載する欄や質の評価欄がないのはなぜか。評価の書式が年によって変わると経年で評価をすることが難しくなってしまう。

昨年度は計画の中間年であったため、見直しを図るために、例年実施していなかった質の評価として、アンケートによる満足度調査や事業者へのヒアリングを行い、その結果を評価とした。アンケート調査等の実施には予算も必要であり、毎年同じように全ての事業で調査等を実施することは難しく、中間年にのみ行うこととしていたため、今年度も調査等を実施できたものは、「質的向上の取組」欄にその旨を記載した。

- 昨年度の質の評価の取組は、大変な進歩だったと思うが、今回はその部分が記載されていない。質的向上に取り組むためには、それが効果的か否かを含めて、質の評価に基づいて行うべきものであるし、行政が懸命に取り組んで向上している結果も、そこから分かるのではないか。

意見をいただいた点を留意しながら、今後の書式には記載をしていきたい。

- すくすく保育アテンダントについては、地域の子育て支援や子育て広場に関する把握をしていないように思える。利用者支援事業としては、保育所の案内だけでなく、担当する地域の広場等の情報を網羅し、案内できるようにするべきではないか。

アテンダントが所属する子育て支援センターは、子どもに関する相談や手続をワンストップで行える目的で設置している。業務内容が多岐にわたるため、アテンダントの業務は、本市では保育所の入所調整や保育所に子どもを預けている保護者との相談が主なものであり、保育所の園長経験者等が担っている。昨年度アテンダントに関する意見をいただき、子育て支援センター職員が子育て広場代表者会議に出席して意見交換を行った。アテンダント以外の子育て支援センターの職員も保育等を含めた様々な窓口相談を受けているため、いずれの窓口においても、必要に応じて子育てガイド等を活用し、子育て広場の案内も行っている。

- 職員の役割を分類することは良いと思うが、保護者とアテンダントが話をしたときにワンストップになっていないという指摘があるなかで、それをどのように補うかを考えるべきである。利用者支援事業は待機児童対策のみを行っていればよいというわけではなく、何を相談すべきか悩んでいる保護者に対してのナビゲ

ーションをする役割も担っていくべきである。

- 子育て広場代表者会議においても、十分な意見交換が行われたと思っていないという声も聞いている。

そのような印象を持たれているということ、きちんと受け止めなければならぬ。子育て広場の代表者の意見も、より丁寧に聞ける機会を設けていきたい。

- 実績値がアテンダントを配置している箇所の数値なので、評価項目として分かりづらい。ワンストップのために子育て支援センターを設置し、市民からの期待度も高い事業なので、その期待に応えられるような窓口であってほしい。

- 幼稚園の一時預かりについては、1号認定の子どもの預かり保育についての数値だが、1号認定の子どもの中でも働いている保護者もいるので、保育基準額の多子軽減のために1号認定としている場合もある。幼児教育・保育の無償化によって、その子どもたちが申請により2号認定となる場合があり、預かり保育の数値に大きな変動が見込まれるが、どのように考えるか。

現時点では、無償化に関する国の決定がなされていない状況であり、無償化後の具体的な教育・保育の需給計画の算出方法も提示されていないが、その提示に基づいて今後の計画を立てていく予定である。

- 基本目標1の成果指標の自己肯定感の数値が低い、関連事業として掲載されているものが、概ね現状維持となっている。数値が低い結果となったのは、質問の仕方にもよるものかもしれないが、市はこの件について、どのように改善していく考えなのか。

自己肯定感が低い結果となったことは、本市としても大きな課題と捉えている。自己肯定感が子どもたちの生活習慣や学力と関係してくることから、生活習慣の改善や授業力の向上などの取組も始めている。乳幼児期から学齢期のそれぞれの教育機関等において、発達段階に応じた教育に取り組んでいると思うが、子どもたちが自己肯定感をもって成長していけるようなキャリア教育の在り方について、連携した取組や研究を進めているところである。

- まずは、自己肯定感が低いことの原因分析が大切であるが、その結果や分析について、共有していけるような組織体制はあるのか。

始めたばかりではあるが、市長部局と教育委員会の関係部署で、情報の共有や理解を図るための体制を整えている。

- 関連事業を見ると、教員等に対する取組はあるようだが、保護者に対する取組はどのようなものがあるのか。

生活習慣の改善などは、特に小学校段階において保護者の協力が必要なので、学校の保護者参観にあわせて行う出前講座を始めたところである。またCAPプ

プログラムについては、新たに「安全教室」として、保護者が参加して取り組める内容となっている。

- AからCの評価についても、量だけで評価してよいのかという話があったが、例えば病児・病後児保育も、ニーズがどこまであって、周知をすれば利用率があがるのか、それを進めていくべきなのかという疑問もある。そういった評価に関する細かい部分が分からないと、意見を言うことも、評価も難しい。次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて、現計画の事業の評価の仕方や目標値の設定についても、見直しの議論をするべきだと思う。

- 地域子育て支援拠点事業の部分に、ブックスタート事業を開始したという記載があるが、既の実施していた事業ではないのか。
4か月健診時の読み聞かせについては、既の実施していたが、本年8月から4か月と2歳6か月の子どもに本のプレゼントを始めた。2歳6か月児は図書館等で配布することとし、図書館等の利用も促進していくことを目的としている。乳幼児期から読み聞かせを行うと、その後の学力にも影響があること、また親子のコミュニケーションも図ることができると思う。
- 8年ほど前にブックスタートの話を市に持ちかけたときには、結果として実施されなかったが、4か月健診での読み聞かせだけでも実施してほしいと要望した経過がある。予算がかかることではあるが、乳幼児期の子どもに対する施策として重要なものなので、このような意見はぜひ聞き入れてもらいたいと思う。
- 限られた財源をどこに投下すれば効果が上がるかという観点は、常に考える必要がある。市の予算は、最終的に議会で決定することになるが、子ども・子育て会議は、所管課が施策を考え、実施することについての意見を言うことができることや、評価の仕組みもある。そのために子育てに関する関係団体で構成されているので、今後もぜひ、率直な意見を出していただけるとよいと思う。評価の仕方についても様々な課題があるが、今回は原案のとおり了承し、次年度の評価までに検討していきたい。

4 その他

(1) 子ども・子育て支援事業計画策定部会の進捗状況の報告について

(2) 幼児教育・保育ガイドライン策定部会の進捗状況の報告について

- ガイドライン策定部会では、以前は保育者と行政について、取り組むべきことの具体的内容を検討してきたが、地域と保護者も加えた四者で、子どもを中心に据えた共通のテーマについて、それぞれの取組や意識すべきことを記載していくイメージとなった。その中で例えば、地域とは具体的に誰を想定して捉えるのか

といったことも考えながら策定する必要があるため、部会構成員以外の委員においても、必要に応じて作成過程から関わっていただきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

5 閉 会

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠	
1	朝比奈 太 郎	相模原市私立保育園園長会	出 席
2	荒 井 美由紀	相模原市立小中学校長会	出 席
3	安 藤 抄 苗	公募市民	出 席
4	遠 藤 靖 明	公募市民	出 席
5	岡 健	大妻女子大学家政学部児童学科教授	出 席
6	片 山 知 子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
7	幸 山 隆	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
8	永 保 貴 章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
9	西 谷 八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
10	馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
11	藤 井 春 美	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
12	前 田 園 寛	相模原保育室連絡協議会	出 席
13	松 原 充 子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
14	村 瀬 麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
15	山 崎 和 正	相模原商工会議所	欠 席

会長 副会長